

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 本多 宣子

豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いしました学校教育診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。おかげをもちまして、2月13日にはその集計結果をもとに学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けしますのでご覧ください。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）	回答数	児童(4～6年)	195名
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）		保護者(全学年)延べ	381名
C…あまりあてはまらない（どちらかというとそのように思わない）	回収率	児童	95.4%
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）		保護者	92.1%

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

1 楽しい学校

※ 増減は昨年度比

児童	3	学校へ来るのが楽しい。				87%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。				91%

児童設問は微増、保護者設問は昨年度同様に9割を越えている。この調査項目は最も重要な項目と捉え、児童が学校へ通うことが楽しいと思えるようにさらに努力していきたい。

2 あいさつ

児童	4	元気にあいさつや返事ができる。				78%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。				83%

今年度は保護者設問は横ばい、児童設問は1%増加した。今後も代表委員会による「あいさつ運動」を工夫し、仲間づくり、学校づくりの原点である挨拶の定着を図っていきたい。

3 行事

児童	5	学校の行事（運動会や学芸会など）は、楽しく積極的に参加している。				96%
保護者	5	お子さんは、運動会、学芸会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。				96%

本年度も児童・保護者設問ともに増加し、96%と高い数値となったことを大変うれしく受け止めている。今後も、児童が行事に積極的に参加できるように工夫・改善に努めたい。

4 自治活動

児童	6	委員会活動には、意欲的に楽しく参加している。				92%
児童	7	学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。				90%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。				89%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。				78%

本年度は児童設問15はやや減少したが、児童設問14は微増した。委員会活動に意欲的に参加すること、係活動に責任をもって取り組むことは、「生きる力」として大事なことである。委員会や学級活動といった児童の活動を支援し、自治力を伸ばすために、これからも教員の効果的な指導を工夫したい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
----	---	---	---	---	---	-----

5 授業

児童	8	授業は分かりやすい。				82%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。				53%
児童	10	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。				90%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。				85%
保護者	6	お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。				78%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。				87%

児童設問13は大きく15%増加、児童設問9も微増した。「話す・書く」言語活動の力がついてきたことを大変うれしく受け止めたい。しかし、昨年度増加した児童設問8と保護者設問6が本年度は6%、8%減少した。分かる・できる授業に向けて、指導・支援のあり方を工夫していきたい。

6 体力チャレンジ

児童	11	体力チャレンジ（すもう・なわとび・マラソン）は、積極的に取り組んでいる。				85%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。				96%

児童設問は6%増加、保護者設問はほぼ横ばいと高い数値を維持した。これは、昨年度始めたチャレンジタイム5分間かけ足の成果と受け止めたい。今後も積極的に取り組むことができる活動のあり方を模索したい。

7 読書とスピーチ

児童	12	読書や読み聞かせの時間は楽しい。				87%
保護者	8	学校は、読書・読み聞かせ等を重視し、豊かな心を育てようとしている。				93%

児童設問は5%増加、保護者設問は9割を超える高い数値でほぼ横ばいと安定している。さらに、読み聞かせボランティアと連携のもと図書委員会活動を充実させ、朝の活動を工夫したい。

8 自信（自己有用感）

児童	17	勉強や運動、係・委員会活動、掃除、遊びなど学校での生活のなかで、自分には自信をもっているものがある。				84%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている。				88%

保護者設問は2%減少したが、児童設問は2%微増した。児童が自信をもつことができる手だてを見直し、さらに家庭と連携して支援にあたりたい。

9 悩み・いじめ

児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。				76%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。				74%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。				86%

児童設問18は5%増加したが、児童設問16と保護者設問はわずかに減少した。このいじめを含めた意識調査の設問18と保護者設問が8割に満たない結果を真摯に受け止め、丁寧に対応をしていきたい。

対象	番	評	価	設	問	A+B
10 友達						
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。				92%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にしていると言っている。				85%
昨年度増加した児童設問はさらに4%増加し、保護者設問は8%増加した。さらに児童の温かい人間関係づくりに力を入れていきたい。						
11 先生への信頼						
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。				75%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。(担任の先生以外にいる場合でもよい)				87%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。				87%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。				86%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。				88%
児童設問20・21と保護者設問13はわずかではあるが今年度も増加し、7年前に比べ約20%増加している。しかし、保護者設問14・15が2・3%減少してしまったことを心に留め、さらに児童・保護者が相談しやすい関係づくりに努めたい。						
12 良い関係づくり						
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。				94%
保護者設問は横ばいと高い評価をいただいた。引き続き、保護者や地域の方々との良い関係の構築に努めたい。						
13 安全・安心						
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。				93%
昨年度に引き続き、今年度も9割を超えている。今後も避難訓練や災害時を想定した対応について見直し、緊急メール配信を工夫するなど安全・安心な学校づくりを推進していきたい。						
14 通信・お知らせ						
保護者	17	学校は、通信や授業参観等を通して学校の方針や様子がよく分かるようにしている。				95%
今年度は2%増え、95%と高い評価をいただいた。今後も、校長室だよりや学年通信等にて、教育目標や方針、活動の様子などを分かりやすく発信し、保護者との協働体制を強化したい。						
15 その他						
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。				91%
今年度も9割を超える評価をいただいたが、あてはまらない・あまりあてはまらないと回答された6%へ目を向け、さらに説明に努めていきたい。						

アンケート結果と学校関係者評価委員会のご意見を踏まえた今後の学校運営について

① 全体

全体としては、引き続き良い評価をいただいた。今後も、さらによくするというスタンスで臨みたい。

② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問でAまたはBを選択した児童は1%増加し、保護者は横ばいの9割を超える数値を維持した。また、「学校の行事は積極的に参加している」設問は児童・保護者ともに増加し、96%と高い数値となった。しかし、「授業は分かりやすい」の児童設問は6%、保護者設問は8%減少した。児童が学校生活を充実していると感じる第一歩は、分かる授業であり、学校行事を楽しみに取り組むことである。今後もこの方向性を大切にし、いっそう教員研修と学校行事の充実に努めていきたい。

③ あいさつ

「元気にあいさつや返事ができる」の設問で、AまたはBを選択した児童はわずか1%増、保護者は横ばいとなった。あいさつと返事は、温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。本年度も代表委員会が「あいさつ運動」を展開し、教員も指導を工夫してきたが、さらに家庭との連携を図り、あいさつへの意識を高めていきたい。

④ 教師への信頼関係

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。児童設問の「相談できる先生がいる」は4%増加、「私を分かってくれる先生がいる」は3年連続微増した。保護者設問は2・3%減少したものの9割近くの数値を得ている。児童が相談しやすい状況や子どもの頑張りを認める方法を模索し、児童・保護者の教師への信頼をさらに得られるように工夫していきたい。

⑤ 自信（自己有用感）

4年間連続増加してきた「先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信をもたせようとしている」の設問でAまたはBを選択した保護者は本年度2%減少したが、「自分には自信をもっているものがある」の設問では、児童の割合が2%増えた。今後も家庭の協力を得ながら、児童の自信（自己有用感）を高める支援を工夫していきたい。

⑥ 自治活動

自分たちの生活を自分たちでよりよくしようという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。全学年が発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上は児童会活動（委員会活動）も行っている。本年度は、この取り組みに関する児童設問「委員会活動には積極的に参加している」は横ばいの92%を維持し、「自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている」の設問は3%増加し90%に近づいている。仲間と協力して取り組むことは児童に身につけさせたい大事な「生きる力」であるので、さらに手だてを工夫していきたい。